コミュン往来
No.14.
'72.12.25.
粉冬眠します。
[発行]
〒572
大阪府寝屋川市木田町8-20
近藤方
コミュン好き者会
30円

〈その2〉ヨーロッパ共同体めぐり

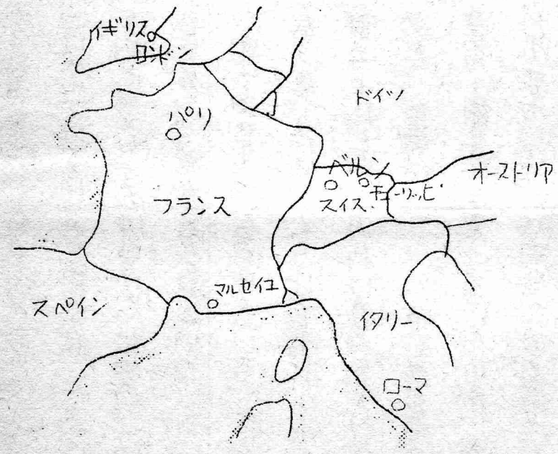
by Tomy-Kadono

スイスでの集会

十七日の報告ノ集会は、フランス国境に近いスイスの北西部にある、サン・ティミエで開かれた。ここは、百年前(一八七二年)に、オランダのハーグで開かれた第一回の総会で、バクーニンはじめ、バクーニン派の人々は、除名されたが、彼らはこの決定に服さず、自らインターを脱出して、自由連合の原則にもとづく新しいインターナショナルの結成大会を開いたという所。当日は小雨で、山の中でもあるので寒かった。スイスは秋を通り越して冬に入った様。ホテルの大広間で集会が始った。しかし、百人以上の人々にもかかわらず、議事の進行は、気がついた者が、その都度やっていて、ホテルの食事を取らない者は、窓の近い方の部屋で、持参の dinner をとる。ここで、ロンドンのフリーダムプレスで会ったイタリアのボローニヤの若者と再会した。ボローニヤでの再会を約束した。dinner 後、ギターに合わせて、ワルシャワ労働歌、そして、インターナショナルを二回歌う。きょうは、半数以上がイタリア人で、イタリア語のインターナショナルが大きく歌われた。次々とコムラードが立つが、地名とあと少しの単語しかわからないまま聞いていた。正面には、黒地に赤でサンティミエ(1872〜1972)と染めぬいた旗があり、バクーニン、マルクスの名がどの発言者の言葉にも入っている。そして、ヨシ(山部さん)が短いながらも堂々とフランス語で連帯の演説をし、同じ内容を日本語でも述べて、大きな拍手を受けている。だからその後は大勢の人に話しかけられた。大部分の人は住所を書いてくれ、来てくれと言ってくれる。イタリア婦人に、ドイツの若者を紹介され、意見の交換をしたいので、是非ドイツに来てくれと誘われる。この若者は、赤軍事件にかなりの興味を示していた。十一時〜三時で集会は終わり、後、雨の中を十五分程歩いて、バクーニンが滞在したという、レストランに行く。ここで人々は旗をかかげ記念撮影。行く途中、フランスの若者で、キャラバンでフランス内を一年以上、五〜六人で旅行している奴と話す。フランスは最も興味のある国だと言ったら、否定して、コミュンを作るのは難しいと言っていた。この集会には、亡命アナキスト(スペイン人)をはじめ、かなりの老アナキストも多く参加していた。CNRDに帰えると、イタリア人が六〜七人も泊まると言って来て、賑やかなこと。夜、イギリス人のラムセイとしばらく話す。バイオレンスグループをどう思うかと聞くと、機関紙 "Out Look" を教えてくれ、"Free Education" をやっているのを知る。又、pacifist (平和主義者)について少々議論。Freedom Press も pacifist だと言っていたが……。山部さんは、集会後、ジュネーブのマリアンヌ・エンケルのコミュナルハウスに行った。彼は、やはりかなりやり手ですね。僕なんか毎日圧倒され続けだ。

個の確立。

'72.9.21 角野



スイスでは、二つのコミュンに行ってみた。一つは、チューリッヒの南二十kmの所にあり、チューリッヒ湖を眼下に望み、又、山のふもは牧場といった美しい所。このコミュンは、スイスのコミュンの情報センターの様になっている。しかし、この地域はドイツ語圏の故、フランス語圏の方のは、当然情報が少ない。ここのコミュンは、元ホテルの大きな建物を借りていて、部屋は、一階ノコモンルーム(大ー2)・台所・食堂・保育室、二階ノ部屋11・バス・洗濯場、三階ノ印刷室、とかなり広い。又、近所の子供を預ける仕事もしていて、将来幼稚園のようにしたいといっていた。メンバーは全員働きに出ていて、ほとんどその職場はチューリッヒだそうだ。デザイナー・幼稚園の教師、グラフィックデザイナー・印刷関係オフィスガール・学生とメンバーは一定していなくて十二人程。月刊情報紙(四頁位)を出している。男六人・女四人・子供二人で、全員二十代。経済は、メンバー全員が同

心臓を共同財布へ入れていた。（ここは、二年前六人で開始され、メンバーの一人は、政治的な動機で我々は、このコミュンを始めたと言っていた。どういった政治的動機かと聞いたら、socialismだと答が返って来た。食事当番はあり。掃除当番はなく、気がついた者がするという。当然、散らかった殺風景な部屋が多い。しかし、全員個室を持っていて、レコードを大きな音量で聞く者、又、コモンルームでは、夜遅くまで議論していた。彼らは、コモンルームで議論している時が一番楽しいとも言っていた。スウェーデンの女の子が住んでいて、北欧人らしいスラリとしたブロンドのヌード写真に出てきそうな感じの子で、五年前スイスに住んでいたとか、今、幼稚園の先生をしている。ドイツ語が達者で、スウェーデンに帰えるつもりはなく、スイスは自由でいいと言っていた。又、オーストリアの女の子もいて、全員女の子はカワイイ。

"Kollektivzentrum Schönegg" Postfach 141A, 8820 Wädenswil, SUISSE.

一つは、スイス北西部、フランス国境近くのヌーシャテルという町の近くのコミュン。　このコミュンの核は、プロテスタントで、コミュンハウスの土場も、教会から譲り受けたという。メンバーは全員結婚していて、子供がいるカップルと、子供が生まれるのを待っているカップルが、半々。家は三階建てで、その日の午前中は、コミュンの子供を四十人程集めて、毎一回の集まりとかで、賛美歌らしきものを歌ったり、ゲームをしたり、子供の教育は難しいと実感した。しかし基盤が宗教なので、プリースクールといったものではない。昼食後、メンバーの女性ロジアンは、画家の家へ連れていってくれ、ヌーシャテルの町を案内してくれた。ヌーシャテル湖のそばのレストランでコーヒーを飲み、コミュンについて少々議論。彼らのメンバーは、全員徴兵制反対の運動をしていて、これも彼らのコミュンの核になっている。こっちが、塾共同体の計画と、政治的な批判にコミュンをしたいとの二つを話したら、同じ立場だといって分なり興味を示してきた。しかし、日本の若い世代は、ほとんど非宗教的だと言ったら、不思議そうな顔をし、互いに、この点はわからないまだった。彼女の夫（ダニエル）は、ソーシャルワーカーの仕事をしているが、徴兵拒否で、来年四ヶ月刑務所に入るという。投票によってRiri civilを勝ち取るのだと話してくれた。毎年三週間、最初四ヶ月の徴兵。毎年二〇〇～三〇〇人の拒否者がいるらしいが、運動は難しいという。夕方に三人連立って、車で、女性ばかりのコミュンに行く事になる。女性解放コミュンと思いきや、修道院の様な所でオバチャンばかり。コミュンのメンバーの一人は、ここは静かで、考えるのにいい所だからよく来るといい、ダニエルは、ここは好きでないと言っていた。来年には、新しい大きな家と土地を手に入れて、自給自足にしたいとの計画を話してくれた。日本のコミュンにもかなり興味を持っていて、これから連絡をとり続け、意見を交換したいとも話してくれた。

"Communauté Chrétienne" La Cure 2043 Boudevilliers NE SUISSE

'72, 10, 30　角野

フランスのMARCH

十月二十七～二十九日にかけて、手紙を書いておいた、マルセイユとスペインの国境の中間点ぐらいにあるモンペリエからさらに山奥へ汽車で三時間半程の、駅員一人の小さな町のコミュンだ。山道を十五分歩く。まず野菜畑が見え、そして赤レンガ色に染った古い大きな家が見えた。ビジター係らしい本当に清らかというか、清潔そうな女性に会い、名を告げ、ノートにチェック。そして、英語を話すヒゲ氏にコミュン内を案内してもらった。古くて暗い所が多い。パンは全部自家製で、台所は非常に広い。盆んに疲れていないかと聞くので何かと思えば、ビジターのする仕事、燃料の木を切る（電気がないンのを、一時間ばかり。五時からヨガをするというので、大広間へ行ってみた。ローソクと木を焼やす明りだけで、ベルギー人を加えて七人参加。毎日やっているらしい。夕食は七時。その前に朗読のようなものと賛美歌らしきものを歌う。食事はセルフサービスで質素だ。女の子が割に多く、おばちゃんも多い。昼食以外は、家族でとるという。朝、広間で朝食の前合唱している。仕方なく加ったら一人々々順番に、ボンジュールとキスのあいさつをやり始めた。全員に。こっちは起きるのが遅く、歯も顔も洗っていないが、あとのまつり。　八時になると鐘がなりひびき人々は仕事についた。小さな木の工作場と、ハタオリ機を持っていて自給自足している。我々は、社会に問題提起をし、仕かけ、改めていく動的空間をコミュンに期待しているのですが……。

'72, 12, 1　角野